

防災公開講座(しずおか防災地域連携第 17 回土曜セミナー)

平成 21 年 7 月 18 日(土) 13:30 から
静岡県地震防災センター ないふるホール

テーマ 「外国人住民と共に震災を乗り越えるために」
講師 池上 重弘 静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科教授

聴講者数 50名

<講演概要>

多くの自治体において外国人住民は、高齢者、障がい者、子どもと並んで災害弱者として位置づけられている。

たしかに言葉の壁によりの確な情報を得にくい場合があり、保護や優先的支援の対象であることは間違いない。

阪神・淡路や新潟の震災時にも、多言語情報提供が外国人住民にとって命綱になった点は高く評価された。その一方、他の災害弱者と異なり、外国人は被災後の救援活動で多大な力となる点も見落としてはならない。

外国人住民を「仲間」にする基本姿勢が、災害時には大いに役立つはずである。

多くの日本人にとって、外国人住民とは外国語で意思疎通をせねばならないと考えがちだが、実際はひらがな・カタカナならば 7 割近い外国人住民が理解できる。そこで、使用される全ての言語に対応する努力をするのではなく、平易な日本語で伝える配慮をすることで、言葉の壁を乗り越える努力をするべきである。

また、多くの日本人にとって、外国人住民は自治会活動や防災に無関心と考えがちだが、実際は半数の外国人住民が地域の避難所の場所を認知しており、地域の自主防災活動に参加したいと考えている。そこで、外国人住民を特別視せず、日頃から顔の見える関係づくりをすることで、心の壁を乗り越える努力をするべきである。

外国人住民を抱える自治会は、行政、企業、学校などと連携しながら、以上のような取り組みを実際に行うことで、外国人住民を「災害弱者」から一緒に支援する「仲間」に取り込んでいく必要がある。